

観光施設メディアラボ

公益社団法人国際観光施設協会編



公益社団法人国際観光施設協会 旅館観光地分科会
コクヨ株

天野 里美

弊社は「フェーズフリー」という考え方に寄り添った空間提案やオフィス家具づくりを行なっております。今回は、「フェーズフリー」という概念や弊社が目指す公共施設のあり方についてご紹介いたします。

フェーズフリーとは

一般社団法人フェーズフリー協会が提唱する「フェーズフリー」とは、「日常時」と「非常時」を切り離すのではなく、連続しているものとして捉える考え方です。社会や暮らし等で活用されるモノやサービスを、日常時はもちろん非常時にも役立てていく考え方であり、「日常時も非常時も、より豊かになる」を目指す姿として掲げています。

予測不可能な時代への対応

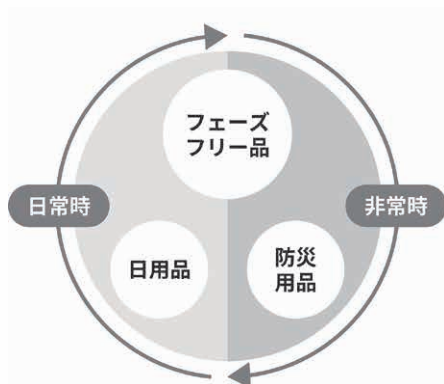
近年、大規模な自然災害が毎年のように起こっています。また、新型コロナウイルスによるパンデミックは、人々の生活を大きく変えました。予測不可能な時代と称されるこれからの世の中において、非常時を「いつか起こるかもしれないもの」から「起こり得る

もの」へと認識を改め、対策を行なう必要があります。

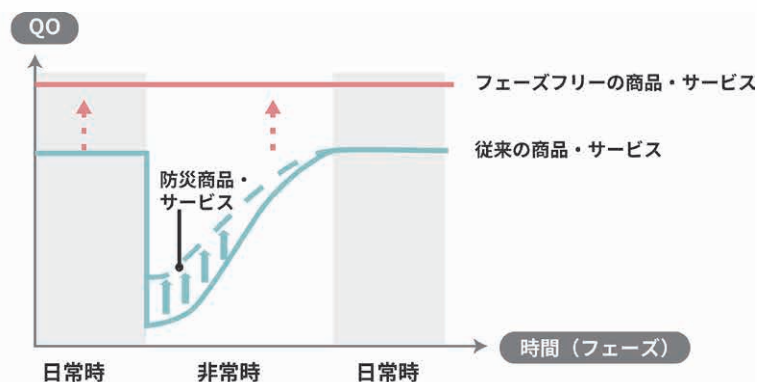
公共施設で進む「フェーズフリー」な空間づくり

「日常時の価値を高めることが、非常時の価値を高める」というフェーズフリーの発想を公共施設で採用する動きがあります。弊社は自治体庁舎をはじめとした公共施設の空間提案を数多く実施してきました。日常時はもとより、非常時においても特別な役割を求められる公共施設において、フェーズフリー発想の空間づくりはとても有効であると考えます。

例えば、空間機能に可変性を与えることにより日常時の空間価値を高める手法があります。可変性によって日常時の利便性を高めることで、より多くの人々が訪れ、にぎわいが生まれます。そして日ごろから空間をフレキシブルに活用



フェーズフリーの概念（参考：一般社団法人フェーズフリー協会）





「東京都港区立三田図書館」にて開架スペースの閲覧用席として1人掛けソファのソロスが採用、持ち運びのしやすさや多様なレイアウトへの対応が評価

コクヨ社がフェーズフリーをコンセプトに開発したオフィス家具



〔マルティス〕コミュニケーションも集中も「変化する活動」に適したコンパクトテーブル

〔ソロス〕止水加工でメンテナンス性をプラスした組合せ自由な1人用ロビーチェア

〔バモス〕対面式カウンターもカジュアルなテーブルも「変化する活動」に適したカウンターテーブル

〔グラビス〕空間をゆるやかに区切り、簡単に持ち運べるホワイトボード機能付きパネル

していれば、非常時においても状況に応じて空間や家具を用途転換できます。フェーズフリー発想の空間は、地域コミュニティにとって不可欠な場となります。

弊社はフェーズフリーの発想を取り入れたオフィス家具の開発を行っており、2021年より継続的に発売しています。「日常時」「非常時」「将来的な運用変更」を考慮した可変性を持たせ、空間での使われ方と併せてお客様にご提案することで、フェーズフリー発想の公共施設づくりを支援してきました。

観光施設での可能性

テレワーク施設やワーケーション施設は近年、都市部に限らず全国的に増加しています。にぎわいの創出やコミュニティの形成を目指すこうした施設にとっても、フェーズフリー発想の施設づくりは効果的であると考えます。弊社は今後も、地域や建物の特性を活かしつつ、フェーズフリー発想をうまく掛け合わせた施設づくりをご支援してまいります。